

玄中寺は太原市から南へ70キロ程の交城県に位置しています。

北魏延興二年(472年)に中国仏教浄土宗の始祖である曇鸞どんらんによって創建されました。唐の太宗・李世民がみずから玄中寺を訪ね「石壁永寧禅寺」の名を賜ったので、永寧寺とも呼ばれています。

隋と唐の時代は道綽どうしゃく、善導ぜんどう両大師が曇鸞の浄土教義を継承しました。玄中寺は当時中国仏教の三大戒壇かいだん<sup>1)2)</sup>の一つでした。9世紀、善導大師が長安の香積寺で浄土法学<sup>3)</sup>を研究し、さらに広めました。この浄土法学は日本の留学僧により、中国から日本へも伝わりました。12世紀に日本天台宗の名僧源空(法然)が善導大師の教義をもって日本に浄土宗を開き、以来、曇鸞、道綽、善導の三大師を三祖師と仰ぎ、玄中寺を祖庭(総本山)としました。

浄土宗は日本で広まり、多くの宗派が出来、法然の弟子親鸞が浄土真宗を開きました。どの宗派も玄中寺を祖庭としています。このように玄中寺は中国の重要な浄土宗の寺院だけではなく、日中仏教文化の交流の架け橋にもなっています。

玄中寺は元の時代の末期に戦争で破壊され、明と清の時代に修復されました

## ■二祖対面

法然の善導に対する敬慕の念は非常に強いものでした。それは法然の二祖対面という次のような伝説で知る事が出来ます。

「ある日、法然が念仏を唱えている時に、突然気だるくなり、うとうとと夢見心地となりました。この時、法然の目の前に五色ずいうんの瑞雲<sup>4)</sup>が西方からたなびいて来ました。雲の上には、一人の長老が立っており、法然に向かって微笑みました。法然はこの人が高僧である事を知り、意を尽くして礼拝し、どこから来たのかと訪ねると、大師は自分が唐から来た善導で、浄土宗が日本においても始



玄中寺山門 (Googleパノラマから)

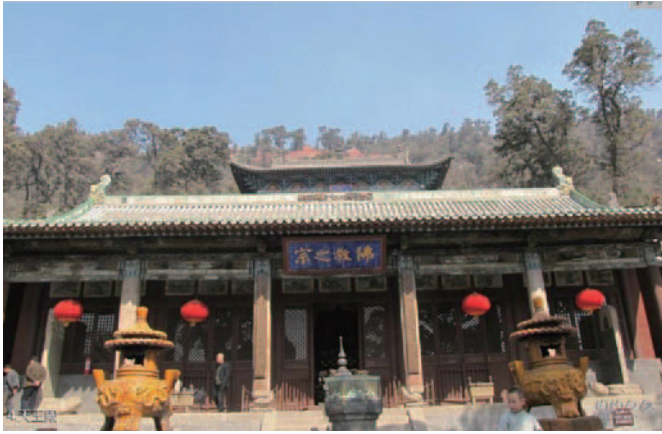
められた事を知って、わざわざ訪ねて来た」と答えました。法然はこれを聞いて心に得ることがあり、善導と互いに問答を交わしました。暫くして夢が覚めましたが、善導大師の姿は依然として目の前にありました。そこで急いで絵師に来るように求め、夢の中で見た善導大師の像を描いてもらい、寺に残しました。以後、日本の浄土宗の多くの僧侶、信徒は常にこの祖師像を重視し、「二祖対面」図と名付けるとともに、尊び、後にその絵は国宝<sup>5)</sup>となりました。

## ■山門

山門は寺院の外門です。仏教によると、仏事には三つの門があると言います。三つの門とは「三解脱門」つまり、空門、無相門、無願門の三つを象徴するので三門と言ったのです。その後、山林中にたくさんのお寺が建てられたので、人々は「三門」を山の門「山門」と言うようになったのです。ある寺ではただ一か所の門しかなくても習慣上「三門」といっていますが、玄中寺の三門は正真正銘の三つの門で、中門は天王殿の正門です。

## ■天王殿

天王殿は明の時代の建築です。中央には腹を出した弥勒仏が端座しており、四天王がその両側に立っています。弥勒は仏教説に拠ると、仏より受



天王殿 (中国ネット「相約久々」より)

器(予言)されて、お釈迦様の後を継いで未来に仏となる菩薩と言われています。中国のお寺ではどこでも置かれていて、口を開いて笑っている弥勒像は、実は五代の頃の契此かいしと呼ばれた和尚の像です。日本では布袋と呼ばれ、言い伝えではこの和尚は弥勒の化身ということになっていて、人々はこの和尚の塑像を作って弥勒菩薩として供養したのです。

### ■石壁寺鉄弥勒像頌碑

この「石壁寺鉄弥勒像頌碑」は「高氏碑」とも呼ばれています。唐の時代の女流書道家、太原参軍房隣ぼうりんの妻渤海高氏が書いたものです。この石碑に拠ると、唐の太宗李世民は北京(太原)ほくけいへ赴く途中、玄中寺を訪れて皇后の病氣平癒を祈願したことがわかります。

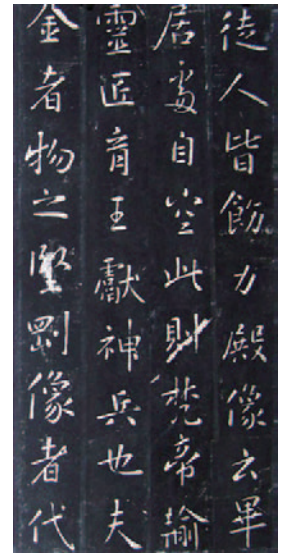
### ■祖師殿

正面には曇鸞、道綽、善導三大師の画像が描かれてあります。両側に日本から送られた書物など



祖師殿 (中国ネット「相約久々」より)

が展示されています。壁にある錦の旗に書いてある「日中友好世代代」を見ると玄中寺の日中友好の物語が思い出されます。日中戦争の時(1942年)日本の浄土真宗東本願寺派「曇鸞大師奉賛会」の会長菅原恵慶が戦争の障碍を越えて曇鸞大師の円寂1400周年行事に参加しました。帰国する時に、玄中寺の棗を東京へ持って帰り、自分の寺院に植え、その寺を棗寺<sup>6)</sup>と改名し、玄中寺の別院としました。



石壁寺鉄弥勒像頌碑部分  
(中国不詳サイトから)

### ■注

1) 戒壇かいだん：仏教用語で、戒律を受ける(授戒)ための場所を指す。戒壇は戒律を受けるための結界が常に整った場所であり、授戒を受けることで出家者が正式な僧尼として認められることになる。

(ウィキペディアから)

2) 三大戒壇：中国に現存する3か所の戒壇。

- 泉州・開元寺の甘露戒壇。福建省泉州市鯉城区新華北路。
- 戒台寺、北京市門頭溝区。戒壇寺ともいう。
- 昭慶寺、浙江省杭州市西湖区。

(Web『神殿大観』より)

3) 浄土法学：浄土宗の教理

4) 瑞雲：仏教などで、めでたい兆しとして出現する、紫色や五色の珍しい雲。(Weblio辞書より)

5) その絵は国宝：国宝・法然上人絵伝(知恩院蔵/複数の書き手による48巻。全巻伝の成立は1237年という)に含まれる。(白雲山東林寺のHPより)

6) 棗寺：東京浅草の運行寺。なつめ寺は通称。

(複数ネット調べ)

国際交流員として2004年から2年間、青森県に  
来日した鄧仁有さん。その後帰国され、山西省太原市にある  
旅游学院の日本語ガイド養成コースで教鞭をとられています。  
わりり誌上で鄧さんが執筆した日本語ガイド資格試験用テキストから、  
山西省の名所旧跡をご紹介してきましたが、このシリーズは  
今回で終わります。